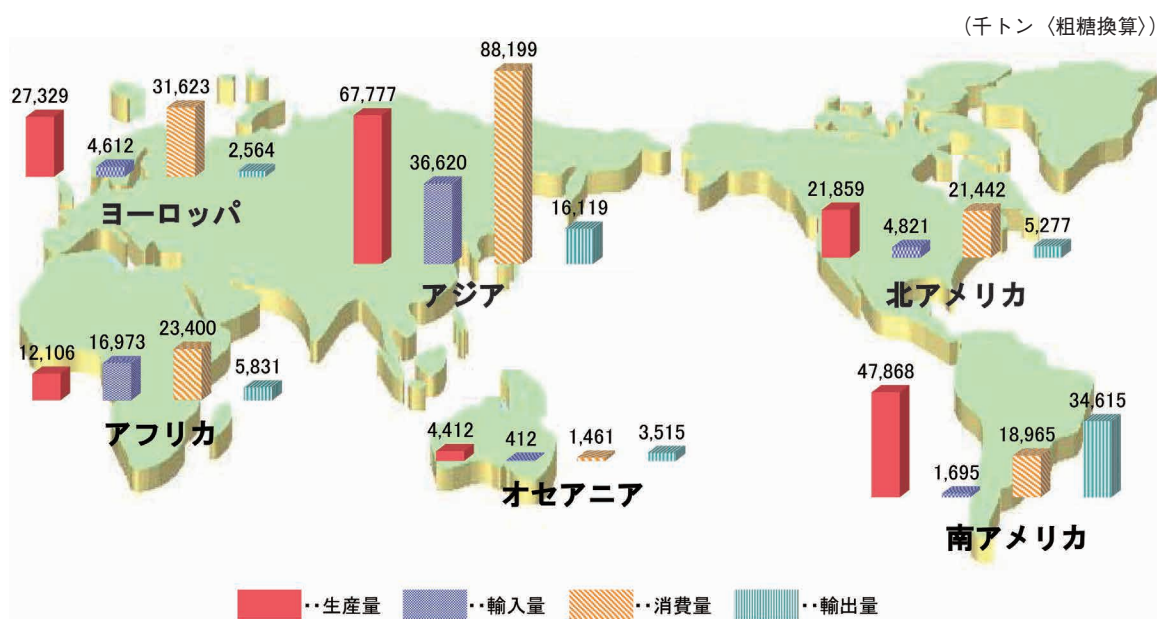


砂糖の国際需給

調査情報部 水野 崇、塩原 百合子

1. 世界の砂糖需給（2021年6月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2020/21年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2021」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

（単位：千トン（粗糖換算）、%）

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1990/91	31,180	114,134	26,729	106,623	28,254	37,165	34.9
1995/96	44,812	122,392	33,811	116,115	36,615	48,284	41.6
2000/01	64,678	130,768	38,567	131,079	40,945	61,989	47.3
2005/06	57,700	151,186	47,535	150,003	50,013	56,404	37.6
2010/11	50,664	166,769	54,668	165,768	58,206	48,128	29.0
2015/16	73,842	175,955	67,776	178,675	69,077	69,822	39.1
2016/17	69,822	180,387	70,759	181,369	71,288	68,310	37.7
2017/18	68,310	195,522	65,728	181,179	67,620	80,761	44.6
2018/19	80,761	186,527	61,049	183,854	61,307	83,176	45.2
2019/20	83,176	181,801	69,477	181,909	70,731	81,813	45.0
2020/21 (2021年3月予測)	82,578	182,739	66,833	184,380	68,743	79,028	42.9
2020/21 (2021年6月予測)	81,813	181,350	65,135	182,304	67,921	78,074	42.8

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2021」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2018/19年度および2019/20年度の数値は推定値、2020/21年度の数値は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。

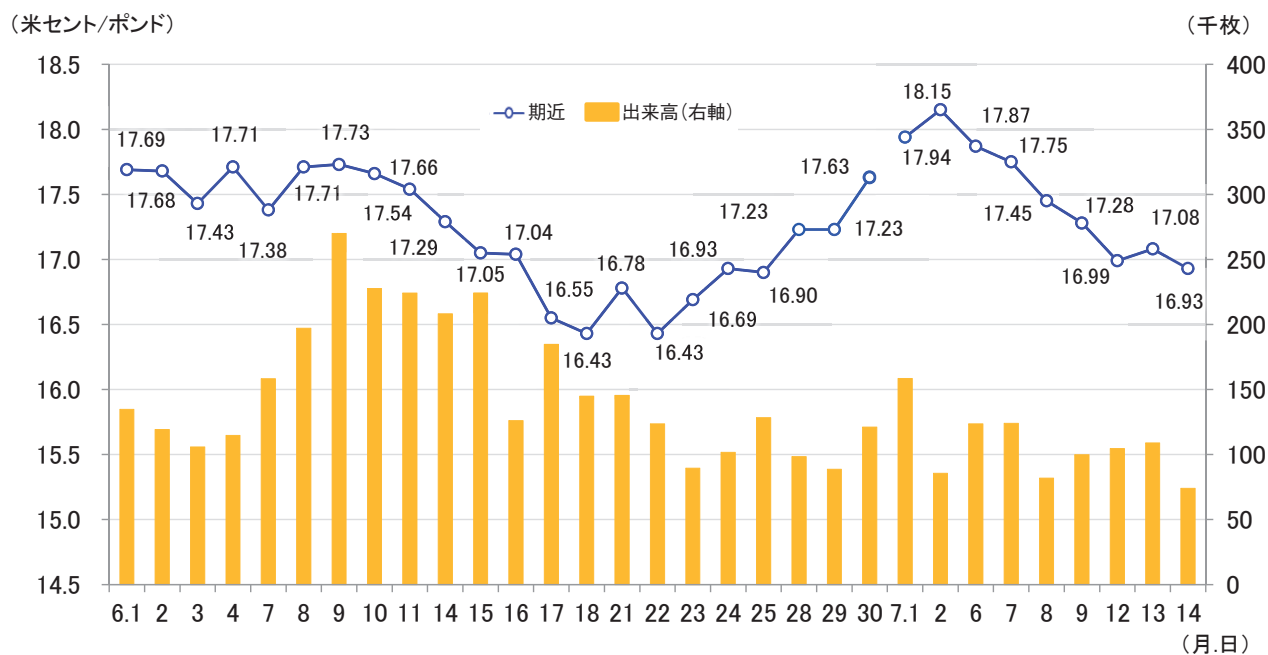
注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（6/2～7/14）

～7月上旬には18セント台に乗せるも、中旬に17セントを割り込む～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）
注：6月は期近7月限、7月は期近10月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2021年6月の推移を見ると（7月限）、6月2日は、インド第2位の製糖業者が、2020/21年度の同国砂糖輸出量が過去最高の680万トンに急増するとの見通しを発表したことなどから、1ポンド当たり17.68セント^{（注1）}を付けた。3日は、国際砂糖機関（ISO）が発表した2021/22年度の世界の砂糖市場における供給量不足が270万トンとなり、2020/21年度の310万トンの不足からわずかに改善するという予測から同17.43セントと値下がりがした。8日は、インド製糖協会（ISMA）が、2020年10月1日から翌年5月31日までの同国砂糖生産量が、豊作により前年同期の2701万トンから3057万トンへと前年同期比で13%増加したと発表したことなどから、同17.71セントを付けた。10日は、ブラジルさとうきび産

業協会（UNICA）がブラジル中南部における5月後半の砂糖生産量が当初予想の252万トンを上回る262万トンに増加したと発表したことなどから、同17.66セントと下落した。15日は、ブラジル中南部のサトウキビ主要生産地において、前週の降雨量が過去平均値の160%となり干ばつが緩和されるとの期待から、続落して同17.05セントまで下落した。17日は、ISMAが、インドの2020年10月1日から翌年6月15日までの砂糖生産量が前年同期比13%増の3070万トンに達したと発表したことなどから、同16.55セントまで値下がりがした。

22日は、ブラジルで週の後半に降雨予報があったことや、エタノール価格の低迷により、同16.43セントと下落したものの、24日に、リアルが対ドルで高値をつけた^{（注2）}ことなどから、同16.93セ

ントまで反発した。30日は、干ばつがサトウキビの生育に影響を与えたとして、民間コンサル会社がブラジル中南部での2021/22年度の砂糖生産量予測を、4月時点から4.2%減の3410万トンに引き下げたことなどから、同17.63セントまで値上がりして納会日を迎えた。

10月限に変わった7月1日は、ブラジルの一部地域で発生した霜への懸念や原油価格の上昇^(注3)を受けて、同17.94セントを付けた。2日は、前日の流れを引き継ぎ、同18.15セントまで上昇した。6日は、ブラジルの霜被害が予想より小さかったことや、原油価格の下落から、同17.87セントまで値を下げた。7日以降は、レアル安などに伴い続落した。12日は、ブラジル中南部地域における6月後半の砂糖生産量が前年同期からやや増加したことにより、同16.99セントまで下落した。13日は、ショートポジションをカバーするための買い戻し^(注4)が入ったことで同17.08セントまで値を戻した。14日は、インドの次年度(2021/22年度)の砂糖生

産量が今年度よりわずかに増加するとの予測が発表された影響で、同16.93セントと再び下落した。

(注1) 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

(注2) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが上昇すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が弱まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が低下すると、需給のひっ迫につながることから、価格を押し上げる方向に作用する。

(注3) 一般に、原油価格が上昇すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要も上昇する。バイオエタノールの需要上昇により、その原料作物(サトウキビ、てん菜など)のバイオエタノール生産への仕向けが増える一方、それらから生産される食品(サトウキビの場合は砂糖)の生産・供給が減ると想定される。食品用途仕向けの度合いが小さくなるほど需給がひっ迫し、当該食品の価格を押し上げる方向に作用する。

(注4) 売買差益を狙い、将来の値下がりを期待して売りの持ち高を取っていた金融資産を、決済のために買い戻すこと。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向 (2021年7月時点予測)

ブラジル

2021/22年度(4月~翌3月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：863万ha (前年度比0.8%減)
生産量：5億9100万トン (同10.1%減)

【砂糖(甘しや糖)】

生産量：3881万トン (同13.0%減)
輸出量：2749万トン (同19.0%減)

2021/22年度の砂糖生産量はかなり大きく、輸出量は大幅に減少する見込み

LMC International(農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社)による2021年7月時点の予測によると(以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述)、2021/22年度(4月~翌3月)のサトウキビ収穫面積は、863万ヘクタール(前年度比0.8%減)とわずかに減少すると見込まれる

(表2)。サトウキビ生産量は、生育期間における降雨量が少なく、単収が減少することで、5億9100万トン(同10.1%減)とかなりの程度減少すると見込まれる。砂糖生産量は、国際価格の上昇や新型コロナウイルス感染症(COVID-19)によるバイオエタノール需要の不透明感などを背景に、前年度に引き続き多くの製糖業者が砂糖の生産割合を高めると予想されるものの、原料の減産を受けて、

3881万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉、同13.0%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。輸出量も、砂

糖の減産を背景に、2749万トン（同19.0%減）と大幅に減少すると見込まれる。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

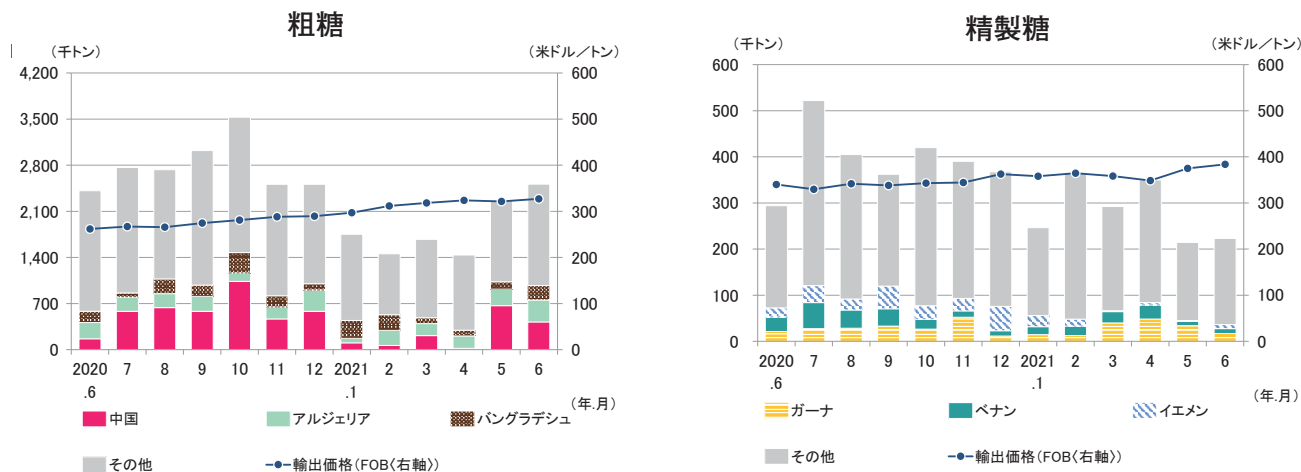
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (6月予測)	2021/22 (7月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	8,649	8,599	8,702	8,633	8,633	▲ 0.8%
サトウキビ生産量	620,832	642,677	657,162	601,000	591,000	▲ 10.1%
砂糖	生産量	31,225	31,804	44,596	40,480	▲ 13.0%
	輸入量	3	2	2	2	▲ 17.3%
	消費量	10,635	10,812	11,321	11,325	0.0%
	輸出量	21,017	20,321	33,947	29,158	▲ 19.0%
	期末在庫量	239	913	243	279	▲ 0.5%
	期末在庫率	0.8	2.9	0.5	0.7	0.6

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

インド

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：489万ha（前年度比5.3%増）

生産量：4億198万トン（同8.8%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：3343万トン（同13.6%増）

輸出量：822万トン（同0.8%減）

2020/21年度は増産するも、輸出促進策の発表の遅れなどを受け、輸出量はわずかに減少する見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、豪雨による大規模な圃場の浸水被害に見舞われた前年度からの反動で、489万ヘクタール（前年度比5.3%増）とやや増加すると見込まれる（表3）。ウッタル・プラデーシュ州で赤腐病（red rot）^{（注1）}の被害が確認されているものの、マハラシュトラ州では、年間降雨量が集中するモンスーン期（6～9月）における降雨が潤沢であったことから、サトウキビ生産量は4億198万トン（同8.8%増）とかなりの程度、砂糖生産量は3343万トン（同13.6%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。輸出量は、COVID-19による物流の混乱は解消しつつあることで、足元の輸出は復調傾向にあるものの、輸出促進策の政府発表の遅延も影響するなどして、結果として前年度ほどの輸出水準には届かず、822万トン（同0.8%減）とわずかに減少すると見込まれる。

（注1）真菌の感染によって引き起こされる病気で、茎の内部が腐り、赤色に変色する。サトウキビの単収や砂糖の回収率に深刻な影響を与えるとされている。

（注2）インド政府の2020/21年度における砂糖の輸出政策の経緯については、『砂糖類・でん粉情報』2020年11月号のインドの項「ISMA、2020/21年度における砂糖の輸出政策の早期発表を首相官邸に要請」（https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002327.html）も参照されたい。

インド製糖協会、輸出補助金政策の早期決定を政府に要請

インド製糖協会（ISMA）の事務局長は現地紙の取材に対し、10月から始まる2021/22年度（10月～翌9月）は、インド政府が速やかに輸出補助金政策を発表することで、600万トンの砂糖輸出が可能となると述べた。

2021/22年度の世界の砂糖需給は、砂糖の国際価格が堅調な推移が見込まれる中で、主産国であるブラジルとタイでは干ばつの影響による減産が見込まれ、その結果、世界全体で生産量は1500万トン減少し、500万トンの供給不足が生じると予測されている。

このような見通しがある中、同事務局長によると、インドには現在、400万トン程度の砂糖の余剰在庫があるとされ、来年度も引き続き余剰生産となる可能性が高いと見込まれている。余剰在庫により製糖業者は経営難に直面し、サトウキビ代の支払い遅延といった数々の問題を抱えている。輸出促進により余剰在庫が削減できるため、同国政府が輸出補助金政策を早急に発表することで、世界的な需要見込に 대응することができるとしている。前年度は、財政状況の悪化などから政策の決定が年度開始後の12月にずれ込んだことで、同国内の製糖企業は対応に出遅れ、砂糖輸出の拡大が図れなかったとしている。

表3 インドの砂糖需給の推移

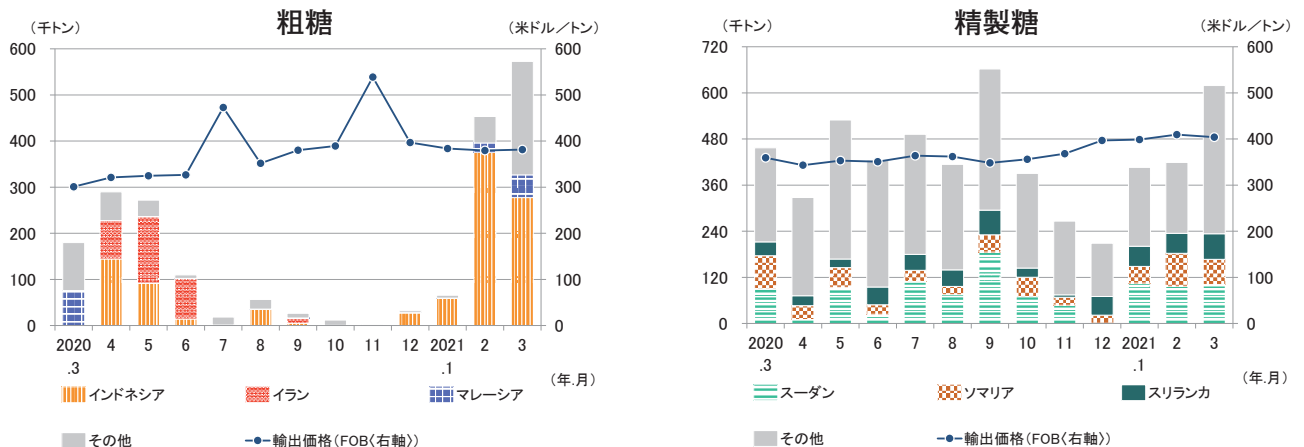
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (6月予測)	2020/21 (7月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	4,794	4,960	4,642	4,888	4,888	5.3%	
サトウキビ生産量	404,399	404,528	369,637	402,491	401,983	8.8%	
砂糖	生産量	35,043	35,798	29,437	33,426	33,426	13.6%
	輸入量	2,308	664	1,687	1,080	1,080	▲36.0%
	消費量	27,421	27,540	27,108	27,216	27,216	0.4%
	輸出量	2,360	5,483	8,288	8,007	8,222	▲0.8%
	期末在庫量	11,523	14,962	10,689	9,973	9,757	▲8.7%
	期末在庫率	38.7	45.3	30.2	28.3	27.5	2.7ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

中国

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：116万ha（前年度比1.6%減）

生産量：7360万トン（同3.5%減）

【てん菜】

収穫面積：23万ha（同8.8%増）

生産量：1238万トン（同13.6%増）

【砂糖（甘しゅ糖およびてん菜糖）】

生産量：1153万トン（同2.4%増）

輸入量：713万トン（同6.7%増）

2020/21年度の輸入量は、かなりの程度増加する見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のサトウキビの

収穫面積は、雲南省では面積の増加が見られるものの、広西チワン族自治区と広東省での面積減少を受けて、116万ヘクタール（前年度比1.6%減）とわ

ずかに減少し、サトウキビ生産量も、7360万トン（同3.5%減）とやや減少すると見込まれる（表4）。また、同年度のてん菜の収穫面積は、内モンゴル自治区において、てん菜の買い取り価格が引き上げられたことから、生産者は作付面積を拡大し、収穫面積は23万ヘクタール（同8.8%増）とかなりの程度増加すると見込まれ、てん菜生産量も、単収の増加に伴い、1238万トン（同13.6%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、1153万トン（同2.4%増）とわずかに増加すると見込まれる。輸入量は、713万トン（同6.7%増）とかなりの程度増加すると見込まれる。

中国、2020/21年度の砂糖輸入量は過去最高水準に

中国税関総署は6月18日、2021年5月の砂糖

輸入量は前月同の18万トンであると発表した。これは、前年同月の輸入数量との比較で30万トンの減少（前年同月比38.5%減）となるが、2020/21年度（10月～翌9月）5月までの累計では411万トンと、前年度同期の182万トンから大幅に増加し、年度当初の8カ月間の砂糖輸入量としては過去最高となった。

同国では、2020年5月21日に砂糖のセーフガード措置が失効し、関税割当外の砂糖に対する追加関税（35%）が解除された^(注) ことにより、2020年8月以降、毎月の砂糖輸入量は前年同月を上回って推移していた。

(注) 追加関税の解除の詳細については、2020年6月12日付海外情報「関税割当枠外の砂糖への追加関税を撤廃（中国）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002725.html) を参照されたい。

表4 中国の砂糖需給の推移

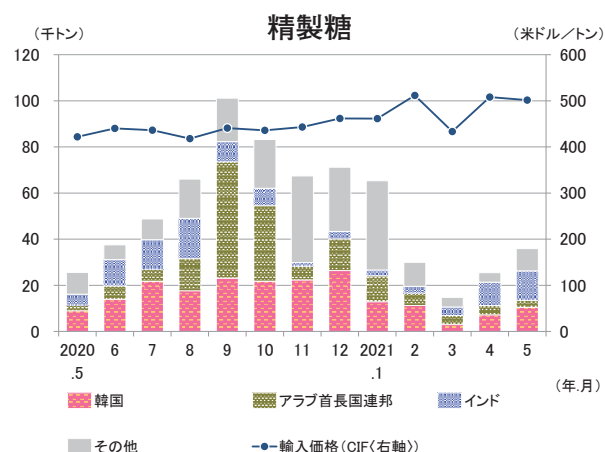
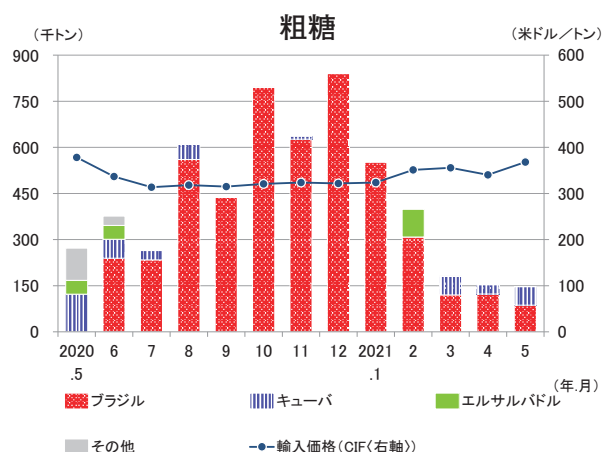
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (6月予測)	2020/21 (7月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,231	1,219	1,176	1,157	1,157	▲ 1.6%	
サトウキビ生産量	76,780	78,590	76,231	73,600	73,600	▲ 3.5%	
てん菜収穫面積	186	243	213	231	231	8.8%	
てん菜生産量	9,590	11,670	10,900	12,380	12,380	13.6%	
砂糖	生産量	11,147	11,640	11,258	11,520	11,530	2.4%
	輸入量	6,033	5,053	6,685	7,224	7,134	6.7%
	消費量	16,414	16,522	16,414	16,849	16,849	2.6%
	輸出量	182	210	192	170	170	▲ 11.5%
	期末在庫量	11,273	11,233	12,571	14,296	14,218	13.1%
	期末在庫率	67.9	67.1	75.7	84.0	83.5	7.8ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸入量および輸入価格の推移



資料: 「Global Trade Atlas」

注1: HSコード1701.14 (粗糖) および1701.99 (精製糖) の数値。

注2: 国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量 (累計) 上位3カ国を表示。

E U

2020/21年度 (10月～翌9月) の見通し

【てん菜】

収穫面積: 148万ha (前年度比2.8%減)

生産量: 9931万トン (同9.7%減)

【砂糖 (てん菜糖)】

生産量: 1519万トン (同10.4%減)

輸出量: 122万トン (同15.0%減)

2020/21年度の輸出量は、かなり大きく減少する見込み

2020/21年度 (10月～翌9月) のてん菜の収穫面積は148万ヘクタール (前年度比2.8%減) とわずかに減少すると見込まれる (表5)。てん菜生産量は、EU最大のてん菜生産国であるフランスで感染が広がる萎黄病 (注) の被害を受けて、9931万トン (同9.7%減) とかなりの程度減少すると見込まれる。てん菜生産量の落ち込みにより、砂糖生産量

は1519万トン (同10.4%減) とかなりの程度減少すると見込まれる。輸出量は、砂糖生産量の減少によって輸出余力が低下し、122万トン (同15.0%減) とかなり大きく減少すると見込まれる。

(注) アブラムシによって媒介されるウイルス性の病気で、葉が黄色く変色し、てん菜の単収や砂糖の回収率の低下を引き起こすとされている。

表5 EUの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

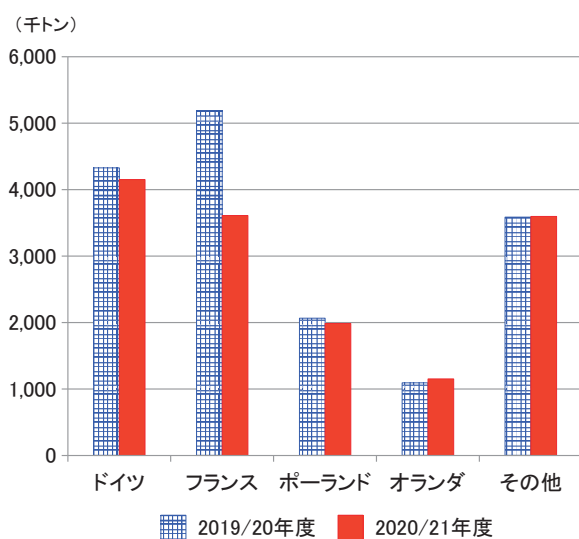
年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (6月予測)	2020/21 (7月予測)	前年度比 (増減率)
てん菜収穫面積	1,624	1,599	1,517	1,475	1,475	▲ 2.8%
てん菜生産量	130,930	104,224	110,038	99,455	99,313	▲ 9.7%
砂糖	生産量	20,353	17,083	16,954	15,212	▲ 10.4%
	輸入量	1,566	2,349	2,230	1,818	▲ 12.7%
	消費量	17,451	17,546	17,108	16,839	▲ 1.4%
	輸出量	4,270	2,391	1,436	1,328	▲ 15.0%
	期末在庫量	2,208	1,704	2,344	1,207	▲ 40.3%
	期末在庫率	10.2	8.5	12.6	6.6	7.7

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

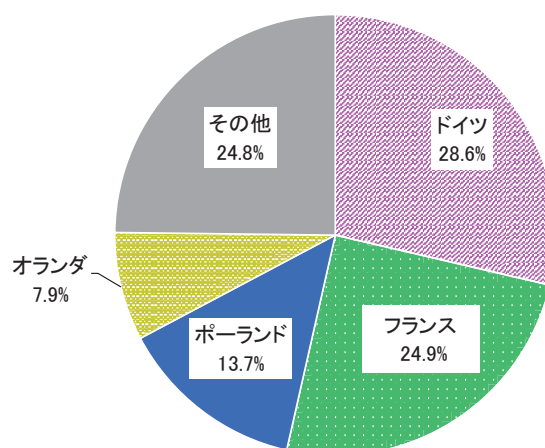
(参考) EUの砂糖生産見通しおよび国別の生産割合 (2021年4月時点)

EUの砂糖生産見通し



資料：欧州委員会
注1：精製糖換算。
注2：2020/21年度は予測値。

国別の生産割合



資料：欧州委員会
注：2020/21年度の予測値に基づく割合。

4. 日本の主要輸入先国の動向（2021年7月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州およびタイで、2020年の主要輸入先国ごとの割合を見ると、豪州が86.6%（前年比5.2ポイント増）、タイが10.5%（同8.1ポイント減）となっており、2カ国でほとんどを占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州

2021/22年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：35万ha（前年度比1.2%減）

生産量：3101万トン（同0.4%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：429万トン（同0.3%増）

輸出量：324万トン（同3.4%減）

2021/22年度の砂糖生産量は、わずかに増加する見込み

2021/22年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、35万ヘクタール（前年度比1.2%減）とわずかに減少すると見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、サトウキビの生育期間中に平年比で降雨量が少ない地域があったことが生育に影響を及ぼし、3101万トン（同0.4%減）とわずかに減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、ここ数カ月に局地的には豪雨が見られたものの、収穫開始への影響は最小限に抑えられたことから429万トン（同0.3%増）とわずかに増加すると見込まれる。輸出量は、324万トン（同3.4%減）と、依然減少傾向が続くと見込まれている。

豪州サトウキビ生産者団体、英国との自由貿易協定（FTA）合意を歓迎

豪州政府と英国政府は6月17日、両国で合意した自由貿易協定（FTA）の内容を発表し、豪州産砂糖については、発効から9年目に関税が撤廃（8年目までは無関税となる関税割当量を初年に8万トン、8年目に22万トンになるよう、均等に引き上げる）される見込みとなった。これに先立ち、両国

政府による6月15日の大枠合意の事前公表を受け、豪州クイーンズランド州のサトウキビ生産者団体であるCANEGROWERS^(注)は6月16日、豪英FTAの合意により英国への砂糖輸出の機会が拡大することを歓迎するとの声明を発表した。

同団体のシムブリ会長は、「提案されている豪英FTAの内容は、即時かつ無関税での豪州産砂糖8万トンの輸出を通じ、豪州側に経済的利益をもたらす」と述べ、今回の合意は、英国のEU離脱前のEU全体への関税割当量9925トンを大幅に上回るとし、その成果を強調した。

英国がEUに加盟した1973年以降、豪州産砂糖に対する英国独自の関税割当は行われておらず、豪州で生産される砂糖の85%はアジアや太平洋地域に向けて輸出されている。

(注) CANEGROWERSは1934年に設立され、クイーンズランド州のサトウキビ生産者の4分の3が加入している。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (6月予測)	2021/22 (7月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	379	364	354	355	350	▲ 1.2%	
サトウキビ生産量	32,493	30,044	31,132	29,500	31,010	▲ 0.4%	
砂糖	生産量	4,717	4,293	4,281	4,181	4,293	0.3%
	輸入量	18	16	10	18	15	50.9%
	消費量	1,057	1,056	1,036	1,062	1,062	2.5%
	輸出量	3,562	3,449	3,357	3,136	3,243	▲ 3.4%
	期末在庫量	958	763	661	719	664	0.5%
	期末在庫率	20.7	16.9	15.0	17.1	15.4	0.4ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：149万ha（前年度比13.3%減）

生産量：6666万トン（同11.0%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：783万トン（同11.1%減）

輸出量：481万トン（同41.1%減）

2020/21年度の輸出量は、前年度比4割減の見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、前期作でのキャッサバなどの代替作物の収益性が高かったことから、今期作では代替作物がより多く作付けされたことにより、149万ヘクタール（前年度比13.3%減）とかなり大きく減少すると見込まれる（表7）。加えて今期のサトウキビ生産量は、前期に続き干ばつの影響を受け、6666万トン（同11.0%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビの品質が向上したもの

の^(注)、サトウキビ生産量が落ち込んだことで、783万トン（同11.1%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。砂糖の減産や在庫量の減少に伴い輸出余力が低下し、輸出量は481万トン（同41.1%減）と大幅に減少すると見込まれる。

(注) タイ政府の焼き畑抑制政策により、焼き畑によるサトウキビ収穫量が減少したため。焼き畑を行うと、サトウキビに含まれるショ糖が分解され、CCS（可製糖率：サトウキビのショ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合）が低下する。

表7 タイの砂糖需給の推移

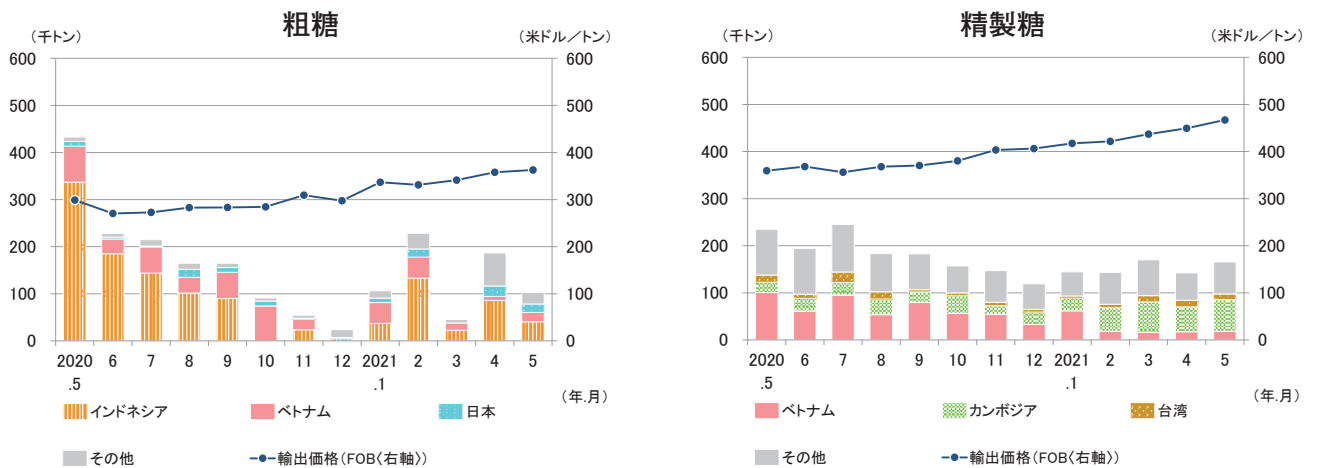
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (6月予測)	2020/21 (7月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,790	1,913	1,714	1,392	1,485	▲ 13.3%	
サトウキビ生産量	134,929	130,970	74,893	66,659	66,659	▲ 11.0%	
砂糖	生産量	15,586	15,457	8,807	7,829	7,829	▲ 11.1%
	輸入量	5	4	59	48	48	▲ 18.7%
	消費量	3,434	3,737	3,773	3,700	3,700	▲ 1.9%
	輸出量	9,820	10,113	8,162	4,799	4,805	▲ 41.1%
	期末在庫量	6,289	7,899	4,830	4,209	4,202	▲ 13.0%
	期末在庫率	47.4	57.0	40.5	49.5	49.4	8.9ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。